



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	正確に話を聞き出せますか? : レッツ! 聞き上手母さん (5)
Author(s)	仲, 真紀子
Description	編者 : 社団法人 静岡県出版文化会
Citation	ファミリス, 2008(10), 22-23
Issue Date	2008-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44755
Type	journal article
File Information	LKK2008_5.pdf



正確に話を聞き出せますか？



北海道大学大学院教授
仲 真紀子

裁

判のときに、子どもが証言している事例も少なくありません。

しかし、多くの事例で、子どもの証言はあまり信用されていません。その原因の一つは、聞き取りの方法にあります。

周りの大人があれこれ不注意に聞いてしまったために、子どもの記憶があいまいになる、子どもが大人の暗示を受け入れてしまふ、といったことが起きているからです。

このような事情はこの国も同じで、欧米では80年代から、子どもへの事情聴取法の開発が大きな研究課題とされてきました。その結果、心理学を活かした面接法（司法面接といえます）が確立し、使われるようになりました。

司法面接は、訓練を受けたことのある面接官（児童相談所の相談員など）が行わなければなりません。

しかし、その基本は、いざこざや事故の解明、病気の原因（何か変なものを食べたか）などを探るべきのように、体験をできるだけ正確に話してもらおう場合にも役立ちます。司法面接は日常の会話とはか



(イラスト/村松麗子)

なり異なりますが、子どもから話を聞き出すときの参考として紹介します。

司

法面接には、次のような原則があります。

①早い時期にたずねる
受けた被害や目撃情報は、時間が経つにつれてあいまいになっていきます。早い時期、できれば2〜3日以内には、話をきちんと聞き取ることが必要です。

②会話を録画または録音する
子どもが何をどう報告するかは、大人がどのようにたずねるかによって変わります。そのため、やりとりのすべてをありのままに記録する必要があります。録画、録音を始めるときには、必ず面接者と子どもの氏名、年月日、時刻を入れておきます。

③面接場所と面接をする人
面接は居心地のよい、しかし、おもちゃなど、子どもの注意をそらすものがない部屋で行います。面接は、できればあまり親しい関係ではない、中立の立場の大人が行います。

次

面接の手順ですが、次のように行います。

①ラポール
「ラポール」とは、信頼できる関係性のことをいいます。最初は事件とは関係のない事柄を話すなどして、子どもの緊張をほぐします。

②自由報告
自由報告とは、「何があつたかお話しして」「そして?」「それで?」などの質問です。子どもの答えに制約をつけることなく、できるだけ多くの情報を聞き出します。

③WH質問
自由報告で十分な情報が得られない場合、WH質問を使います。たとえば、自由報告の中に時間についての情報が含まれていなければ、「いつ?」とWH質問でたずねます。

④クローズ質問
WH質問でも答えられない場合は、「昼休みの前? それとも後? それともわからない?」などのクローズ質問を使います。ただし、争点となりそうなことを、直接たずねてはいけません（たたかれたかどうかが問題となる場合に、「たたかれたのか?」とたずねるなど）。

⑤誘導質問
ここまでで、十分な情報が得られればよいのですが、どうしても得られなければ、「落ちたの? 落とされたの? それともわからない?」と、最後にたずねなければならぬかもしれません。
しかし、このような質問で得られた情報は、誘導がかかっていると批判されることもあります。したがって、最後の手段だといえるでしょう。これで何も情報が得られなければ、この子どもは話す状態にないと考え、面接を終えます。面接を終えるに当たっては、子どもに感謝し、中立な話題に戻し、終了します。

●なまきこ ●福岡県生まれ。北海道大学大学院文学研究科教授。認知心理学、発達心理学専攻。母子会話、子どもの記憶に関する心理学研究のほか、子どもの司法面接、目撃証言などの研究を行っている。主な編著書として「目撃証言の心理学」（共著、北大路書房）、「子どもの面接法—司法手続における子どものケアガイド」（アルドリッジ・ウッド著、仲編訳、北大路書房）など。

